

「スポーツ」を通じた未病改善の機会創出と地域活性化

小田原市

令和元年度実施内容

「ラグビー」を通じた地域活性化と国際交流！

ラグビーオーストラリア代表とのトレーニングキャンプに関する協定に基づき、昨年度に引き続き、小田原でトレーニングキャンプを実施するなど、ワールドカップを契機とした様々な交流イベントを実施しました。



＜ワラビーズ歓迎セレモニー＞



＜女子7人制代表チーム歓迎セレモニー＞

その他の取組

- ・パッカー車をワラビーズカラーにペイント
- ・駅周辺のシテイドレッシング
- ・ワールドカップ観戦バスツアー
- ・オーストラリアキングズスクールとの交流
- ・オリジナルグッズ(Tシャツ、ハローキティコラボグッズ)の作成



＜パブリックビューイングの開催＞

令和2年度の予定

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としたスポーツ振興及び地域活性化を図るため、機運醸成に努めるとともに、スポーツを通じた未病改善、障がい者スポーツの振興等により、誰もが生き生きと暮らせる社会の実現を目指していきます。

県西活性化プロジェクトのこれまでの取組を踏まえた評価

小田原市

これまでの主な取組とその成果

交流人口の拡大による地域経済の活性化

ラグビーワールドカップ2019に向けたオーストラリア代表の公式キャンプや地域資源をめぐる城下町おだわらツアーデーマーチ等の開催、地元特産品のブランド化等を行った結果、誘客・消費を促すことができ、本市の入込観光客数及び観光客消費総額の増加に効果がありました。

- ＞ 入込観光客数 H28年 594万人 → H30年 618万人
- ＞ 観光客消費総額 H28年 172億円 → H30年 198億円



＜ワラビーズ公開練習＞



＜ツアーデーマーチの様子＞

「食」による「未病改善」の普及啓発

市内飲食店と協力し、家庭で簡単に作れる健康メニューを集めた「適塩簡単プロレシピブック」の作成や、飲食店で食塩相当量を表示した「適塩・健康メニュー」を提供する等、未病センターの運営とあわせて多くの方に未病の改善を普及しました。



＜適塩簡単プロレシピブック＞

今後の主な取組

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、協定締結国のキャンプの受入れや、令和元年11月に開業した「漁港の駅 TOTOCO小田原」における、地場水産物の販売や飲食等を通じて、更なる交流人口の拡大と地域活性化を図っていきます。また、引き続き、未病センターの運営を行うとともに、「食」による「未病改善」を推進していきます。



＜漁港の駅 TOTOCO小田原＞

道の駅を活用したにぎわいの創出

南足柄市

道の駅「足柄・金太郎のふるさと」
令和2年4月24日(金) グランドオープン

みんな
来てね!



◎令和元年度までの主な取組

- 重点「道の駅」候補に認定
- 公募による名称決定
- 出荷希望者の募集や説明会の開催
- 再生可能エネルギーや地元材を活用した建築
- 地方創生拠点整備交付金の獲得 など



◎令和2年度の主な取組

- グランドオープンによる式典、記念イベント
- 防災備蓄用資機材の整備
- 指定管理業者による管理・運営のもと、南足柄産の農林水産物や特産品の販売
- 道の駅を拠点とした市内周遊型観光や広域観光などの検討 など



道の駅を活用したにぎわいの創出

南足柄市

◎今後の展開



地域の特性や資源を最大限に活用し、人を呼び込み、
南足柄市をはじめ、**県西地域全体の活性化**

里都まち交流拠点を軸とした地域活性化

- ▶ 里都まち交流拠点（なかい里都まちCAFE・里都まちキッチン）の整備
 - ▶ 町の交流拠点・情報発信拠点及び未病いやしの里の駅（食の駅）としての拠点機能
- ▶ 地場産品と豊かな里山環境を活かした取組
 - ▶ ブランド認証品「なかいの逸品、太鼓判！」の提供・販売
 - ▶ ノルディック・ウォークの普及促進
- ▶ 未病の改善に繋がる取組
 - ▶ 未病いやしの里の駅（食の駅）として「未病の改善」のPR
 - ▶ ノルディック・ウォークによる「未病の改善」
 - ▶ 未病センター・なかい健康づくりステーション等との連携



写真：ノルディック・ウォークイベントの様子



写真：みかんラーメン（ブランド認証品）の提供

これまでの取組を踏まえた総括

【取組による効果】

- ▶ 拠点整備による新たなにぎわいの創出や「未病の改善」と町の魅力についての情報発信力の強化
- ▶ 地場産品を活用したブランド認証品の開発促進と拠点施設でのPR・販売等による魅力の創出・向上
- ▶ ノルディック・ウォークの普及促進による豊かな里山環境のPRと楽しく未病を改善する行動の促進

【今後の取組】

- ▶ 次年度も里都まち交流拠点を軸として、各施策を連携・充実させ、交流人口の増加と地域活性化に取り組む

食と農業体験交流ブランド化促進事業

大井町

■令和元年度までの実施概要

地域資源を活用した交流体験事業や食（特産品）に関する事業を通じて「未病を改善する」取組みを進めるとともに、地域住民による事業の自走化を図る。

1.食と農業体験交流事業のブラッシュアップ

●人材育成事業

交流体験事業ビジネス化のための人材育成
NEALリーダー（自然体験活動指導者）76名（～R1）養成

●交流体験メニューの充実化

NEALリーダーによる交流体験メニュー開発及びブラッシュアップ

●交流体験メニュー試行を目的としたイベント開催

そうわ食・体験・工作フェスタ

R01:20メニュー実施 450名集客

H30:18メニュー実施 600名集客

●モニター民泊の実施

相和地区内の農家及び民家 受入体制 24家庭（～R1）

R01:2回 39名受入 H30:3回 62名受入

H29:2回 33名受入 H28:1回 9名受入

●食（特産品）のブランド化

フェイジョアの生産量向上・販路拡大と6次産業化の促進

■今後の取組

1.食と農業体験交流事業のブラッシュアップ(継続)

- ・人材育成事業・交流体験メニュー充実、イベント開催
- ・民泊体験事業の実施・食のブランド化

2.設立した法人の自走化に向けた取組み



写真：NEALリーダー養成講習会



写真：そうわ食・体験・工作フェスタ



写真：東海大学観光学部との連携による「子ども民泊チャレンジ」



写真：食(フェイジョア)のブランド化

～これまでの取組を振り返って～

大井町

■これまでの取組による効果及び今後の展開

1.食と農業体験交流事業のブラッシュアップ

- ・体験事業や大学との連携を通じ、交流体験受入体制が整いつつある。
- ・NEALリーダー（自然体験活動指導者）についても、資格取得者は増加している。
- ・NEALリーダーにより、交流体験メニューがより充実したものになっている。

⇒ 地域住民による事業の自走化を図るべく、「神奈川大井の里体験観光協会」が設立。

「神奈川大井の里体験観光協会」を起点として交流体験受入人数の増加と交流体験メニューの充実を図り、事業の自走化を推進していく。

2.食のブランド化

- ・フェイジョアの栽培技術の向上と生産量の増加が図られ、また、6次産業化も進んでいる。

⇒ フェイジョアアイス、フェイジョアジャム、フェイジョアカレー等、特産品の開発。

引き続き、販路拡大とともに、その認知度の向上に努めていく。

3.未病改善に向けた情報発信

- ・未病観光コンシェルジュの資格を持つ芸人により、地域観光資源のPR。
- ・「スポーツと笑い」をテーマにしたイベントを開催。

⇒ 未病改善の普及啓発及び

「未病バレー ビオトピア」の認知度向上。

引き続き取り組むことで、未病改善や地域の魅力を多くの人に浸透させていく。



写真：ME-BYOフェスタ

織りなす柄が新たな絆を創出する



松田町

～複合拠点施設(文化・スポーツ・未病改善・国際交流機能)への

リノベーションによる賑わいある広域拠点づくり～

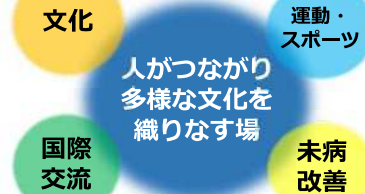
■これまでの主な取組

- 町民文化センターを複合拠点施設へリノベーション
 - ・スポーツライミングウォール、トレーニングルームを設置
 - ・調理室を未病キッチンに改修
 - 最新の舞台機器を整備
 - ・英会話カフェへ改修



- 国際交流拠点整備を通じた地域活性化
 - 国際交流組織、外国人向け（英語版）HP運営
 - ・外国人材によるインバウンド環境整備促進

- 県西地域のネットワーク化に向けた新松田駅周辺エリアの整備
 - ・新松田駅周辺エリアのポテンシャル及び県西地域波及効果の可能性調査、あるべき姿の構想、計画
 - 多言語対応駅周辺案内施設の整備
 - ・駅周辺地域広域案内等の運営（実証実験）



■令和2年度の主な取組

- ・自走可能な国際交流組織の確立に向けて（ホームステイ、ガイドマッチング等）
- ・外国人材によるインバウンド環境整備促進及び地場産品の海外販路確立
- 新・寄ヒーリングビレッジにおける地域資源のビジネスブランド化促進事業
- 新・未病改善・環境保全ハイキングイベントの開催



織りなす柄が新たな絆を創出する



松田町

～複合拠点施設(文化・スポーツ・未病改善・国際交流機能)への

リノベーションによる賑わいある広域拠点づくり～

■これまでの取組を踏まえた評価・総括

県西地域活性化プロジェクトに係る

《審議会評価》●○○遅れています

【評価の内容】

- ・県西地域活性化プロジェクト推進事業の一環として取り組んだ、町民文化センターリノベーションを平成29年度中に実施し、従来の文化教育にスポーツ・未病改善・国際交流機能を加えた複合拠点施設へ生まれ変わった（令和元年度も国際交流機能整備を推進）。
- ・従来に無い視点から、スポーツライミング施設の設置、建設後、初となる舞台機器等の更新を実施したが、今後、さらなる利用者の増加を図るため、スポーツライミング施設等を活用した健康づくり事業や大ホールを活用した自主事業等を効果的に実施していく必要がある。
- ・KPIはすべての項目において、目標値を下回ってしまったが、3項目すべての実績値が増加に転じているため、引き続き、魅力的な取組を推進することで来館者数等の増加を図る。また、国際交流に関しては、ボランティアさんに町主催事業等において外国人に対する通訳・案内を実践していただいた。



評価等を踏まえて

■今後取り組むべきこと

～今まで種をまき、育んできたものを活かして～

次のステップへ

《各事業共通して》

持続可能なカタチとするために

- ・持続可能な体制づくり
- 地域資源の更なる活用
- ・稼げる仕組みづくりの推進

■拠点整備KPI（参考）

KPI(単独・拠点)	基準値		H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	目標値 H32年度	単位
本事業で整備する複合拠点施設への来館者数(年間)	33,801	当初目標	33,801	28,000	50,000	80,000	120,000	人
		実績	31,383	29,777	43,315			
スポーツライミングの松田町内登録人口	0	当初目標	0	30	200	300	400	人
		実績	0	0	99			
訪日外国人通訳・案内人材の登録者数	0	当初目標	0	5	10	20	30	人
		実績	0	5	7			

「健康ステーション」を中心とした 未病・健康づくり事業

山北町

《これまでの主な取り組み》

- 地域の健康づくりの拠点となっている健康福祉センターに未病センター「健康ステーション」を設置、血圧計・体組成計・脳年齢計等が自由に利用できるようになっている。各健康教室等でも「健康ステーション」を活用している。
- 町民が主体的に健康づくりに取り組むよう、ポールウォーキングの自主サークルの立ち上げに向け支援を行った。
- 「森林セラピー」では山北町の大自然を活かして癒しの場を提供している。



《令和2年度の主な取り組み》

- さらなる「健康ステーション」の利用促進
- 町民が主体的に健康づくりに取り組むことができるよう、自主サークルへの活動支援や既存の「健康づくりポイント事業」の充実
- 「森林セラピー」ではSNS等を活用して情報発信を行う



《これまでの取り組みを踏まえた評価・今後の取り組み》

- 町では平成28年度からポールウォーキング教室を実施してきたが、継続した活動の要望もあり令和2年度から自主サークルでの活動が開始することとなった。また、生活習慣病予防教室においても、教室終了後以降も参加者が地域で集まり自主的に運動を行うグループが立ち上がった。
- そのような活動から、「健康ステーション」を活用することで、町民の健康意識の高まり自主的な活動に繋がっているのではないと思われる。
- 自主的な取り組みが継続するよう、引き続き「健康ステーション」の運営を行う。また、既存の「健康づくりポイント事業」を周知し、インセンティブ制度で健康づくりが継続するよう、魅力のある内容に充実させていく。
- 健康福祉センターを拠点に「峠走」のランナーも増えており、より多くの方に「健康ステーション」を活用してもらうように周知を行う。
- 「森林セラピー」ではこれまで6通りのセラピーコースを設定してきた。町内外あわせて年間約200名の参加があり、癒しの効果を体験している。引き続き新たなコースを検討し、町民へのさらなる周知と、自主的にセラピーコースを利用した健康づくりを行うことができるように整備や情報発信を行う。



未病見える化コーナーの活用による健康づくり

「筋力をつけよう」「朝食を食べよう」をスローガンとする健康づくりプロジェクトがスタート！

● 筋力UPのための運動教室の開催

未病見える化コーナーの説明会の参加者向けに、理学療法士による運動教室を実施した。

<運動教室の様子>



あしがり郷「瀬戸屋敷」の機能強化による地域活性化

● 交流拠点施設を整備

「案内・食品加工・販売」の機能を持った施設を整備した。

● 駐車場の拡張

大型バスが発着できるスペースを確保した。

<交流拠点の写真>



令和2年度の主な取組

● 希望地区での出張運動教室の開催

● 瀬戸屋敷の観光プラットフォーム化へ向けた体制づくり

● 評価・総括

- ・ 未病見える化コーナーを活用した取組を実施することで、町民の健康に対する意識啓発につながった。特に、令和元年度から開始している健康づくりプロジェクトの推進により、未病見える化コーナーや健康機器を活用した事業を多く実施することができた。
- ・ 未病いやしの里の駅に指定されているあしがり郷「瀬戸屋敷」について、地域住民や民間事業者等から得た意見を幅広く取り入れながら機能強化を進め、ハード整備だけに頼らない地域活性化の拠点づくりを達成した。

● 引き続き取り組むべきこと

- ・ より多くの年代の方に未病見える化コーナーや健康機器による測定を体験していただき、自分の体に関心を持ち、運動の習慣づけや健康の自己管理意識の向上のために、年齢層・健康状況に合わせた運動指導や健康知識の普及啓発に取り組んでいく。
- ・ 交流拠点の活用により、町のブランディングコンセプトである「田舎モダン」を想起させるモノ・コトづくりを推進し、瀬戸屋敷の観光コンテンツとしての強化と地域全体の魅力向上を図る。

県西地域活性化プロジェクトのこれまでの主な取組

令和元年度までの主な取組 森林セラピー基地の魅力向上

- ・癒しや運動などをテーマとした「森林セラピーツアー」や、森の中でのヨガ体験・森林セラピストとのウォーク体験に、飲食・物販を組み合わせたマルシェ形式の「はこじよマルシェ」を実施した。
- ・箱根の自然や歴史等の講義や箱根の森での模擬ガイド講習等を行い、セラピストの育成を図った。



▲森林セラピーツアー

未病改善プログラムの普及

- ・仙石原公園に健康遊具を設置し、効果的な健康維持及び増進ができるよう活用プログラムを構築するとともに、講師を招き活用講座を開催した。
- ・水泳教室において水中ウォーキングやスロースイミングなどを実践し、未病改善の促進を図った。
- ・自らの体力や運動の目的に応じた水中運動ができるよう、水中運動プログラムを構築した。



▲水泳教室

芦之湯温泉の活用による地域活性化

- ・国民保養温泉地に指定されている芦之湯温泉にて、健康ウォーキングや温泉入浴指導員による温泉入浴方法の指導を取り入れた、健康増進温泉利用プログラムを実施した。



▲温泉利用プログラム

令和2年度の主な取組

- ・森林セラピーツアーの開催・セラピスト育成・水泳教室の開催
- ・国民保養温泉地「芦之湯温泉」での温泉利用プログラムの実施

県西地域活性化プロジェクトのこれまでの取組を踏まえた評価

これまでの取組により達成できたこと

- ・豊かな自然を活かしたプログラムの実施により、「未病いやしの里の駅(森のふれあい館)」の森林セラピー基地としての認知度向上が図るとともに、「健康意識の高い女性」をターゲットにした誘客コンテンツを提供することができた。
- ・健康遊具の活用や水泳教室の実施により、未病改善のための日々の運動の習慣づけにつなげることができた。
- ・芦之湯温泉を活用した温泉と健康増進を結びつけたプログラムの実施により、参加者の未病改善への意識向上が図られた。

総括

未病に対する意識向上のみならず、火山や温泉、豊かな森林といった、地域の特色や資源を活かすことで、地域のブランド力の強化、付加価値の創造にもつながった。



県西地域活性化プロジェクトのこれまでの主な取組

真鶴町

魚つき林のアピールと森の駅ーケープ真鶴の再生

(令和元年度までの主な取組)

■お林ステーションの充実

本事業で整備した「お林ステーション」は、遠藤貝類博物館と連携し、平成30年度に設置した真鶴半島の「見どころマップ」をはじめ、「まなづるの海の月報」の掲出や、お林の木の紹介など、お林と海の関係性を紹介し、施設内容の充実を図った。

■お林保全方針の策定

お林(魚つき保安林、県立自然公園を含む)を後世に残すため、お林保全協議会を設置し、「お林保全方針～お林の基本的な考え方～」を策定した。



▲お林調査

(令和2年度の主な取組)

令和元年度に策定したお林保全方針に基づき、お林の具体的なルールづくりや保全活動、積極的活用の検討・協議を始める。また、引き続き「お林調査」を実施しボランティアの皆さんにお林の価値を実感していただく。

森の駅・ケープ真鶴は、これらの拠点施設であり、指定管理者や他団体と連携し来訪者に真鶴半島の価値を広く周知しつつ、癒しの場としての充実を図る。

県西地域活性化プロジェクトのこれまでの取組を踏まえた評価

真鶴町

魚つき林のアピールと森の駅ーケープ真鶴の再生

●これまでの取組を踏まえた評価・総括

平成27年度から28年度にかけてケープ真鶴を森の駅として整備したことにより、真鶴半島を訪れる方の拠点施設として、来訪者を迎え入れる体制を整えることができた。

●これまでの取組により達成できたこと

「お林ステーション」で真鶴半島の自然環境を紹介することにより、遠藤貝類博物館やお林保全協議会などの他団体との連携が強化され、施設内容の充実を図ることができた。

お林調査では多くのボランティアが参加し、ケープ真鶴を拠点施設として活用することができた。また、お林保全協議会の取り組みなどを紹介することで、来訪者へ真鶴半島に対する関心を高めることができ、お林保全に向けた展開を図ることができた。

●引き続き取り組むべきこと

令和2年度以降お林保全協議会で策定する真鶴半島の利用に関するルールなどもケープ真鶴で周知していく。また、保全と併せて真鶴半島の活用方法を模索し、ケープ真鶴の新たな拠点施設としての役割を探る。

引き続き、指定管理者や他団体と連携し、来訪者の癒しの場として施設の充実を図っていく。

県西地域活性化プロジェクトのこれまでの主な取組

湯河原町

2016(H28)年度

ファンゴを主軸に、県西地域の資源を活用しながら未病を改善できる「温養道 現代版湯治プラン」の健康ツアーを実施



2017(H29)年度

町営の温泉施設「こごめの湯」へファンゴ施術拠点「ファンゴハウス」を開設し、町内のレストランや大型お菓子工場と連携したツアーを実施



2018(H30)年度

「ゆがわらっことつくる多世代の居場所」において世代を超えた地域住民が集い、様々な活動を通じてコミュニティが形成された



2019(R1)年度

タイ王国から自治体首長や内務省、社会開発人間安全保障省職員など250名以上が来庁し、未病の取組みについての研修会を実施



2020(R2)年度の取組

- ・ファンゴの周知
- ・ゆがわらっことつくる多世代の居場所への支援
- ・タイ王国ブンイトー市での未病を通じた介護予防の普及活動

県西地域活性化プロジェクトのこれまでの取組を踏まえた評価 湯河原町

《これまでの取組みについて》

- 多世代交流の推進により、高齢者の生きがいでなく、子どもたちにとっての「安心できる居場所」を創出
- 関節痛の改善やストレス軽減効果のエビデンスが得られているファンゴを活用した誘客による地域の活性化を実施
- 未病改善に向けたスポーツイベントの開催や町内の公園へME-BYO対策健康遊具の整備により、誰もが気軽に「未病改善」に取り組める仕組みづくりと未病の普及啓発を実施

《今後の課題・展開について》

- 「未病を改善する」地域として日本だけでなく世界へ向けて発信し、国内外からのひとのながれを創出する
- 地域コミュニティの形成は、誰一人として取り残さない社会の実現に資するものであり、多世代交流により創出された「居場所」を継続していくことで、取組みを深化させる

